

山形県立酒田特別支援学校

施設概要

事業主体：山形県

施設名称：山形県立酒田特別支援学校

所在地：酒田市大字宮海字新林 307 番地

用途：学校（特別支援学校）



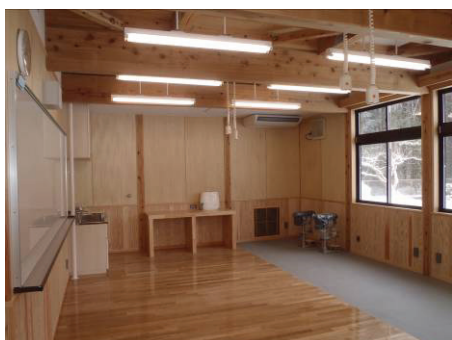
《外観写真》

●施設の特徴、内容

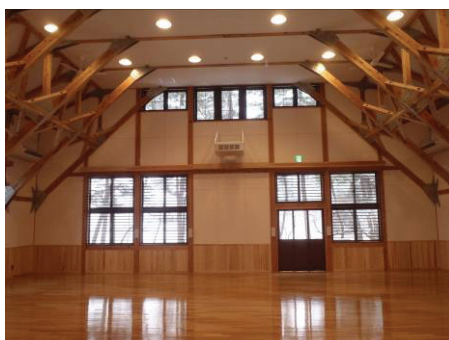
山形県立酒田特別支援学校は山形県で初となる「複数の障がい種別を対象とする新たな特別支援学校」として、既存の県立酒田ろう学校敷地内に知的障がい教育部門を併設するかたちで施設整備が行われた。

普通教室 24 学級に加え、作業室・技術室・家庭科室・プレイルーム・ランチルーム等を備えている。プレイルームは木造のトラス架構とバットレスにより天井高 6.3m、スパン 13.6m の空間を確保している。

既存施設は鉄筋コンクリート造となっているが、今回建設部分については木造を採用した。自然素材を採用することで、木材から伝わる温かさと風合いにより、児童・生徒の心の豊かさと活力のある生活の場となることを目指した施設としている。



《技術室》



《プレイルーム》



《ランチルーム》

■建物情報

階数：地上 1 階

構造：木造（渡り廊下鉄骨造）

小屋組方式：洋風小屋組

敷地面積：26,490.14 m²

延床面積：2,397.77 m²

各階床面積：校舎 2,145.51 m²

渡り廊下 229.08 m²、車庫 23.18 m²

最高軒高：5.1m

最高高さ：9.7m

■主要仕上

外部仕上

（屋根）：長尺ガルバリウム鋼板瓦棒葺き t0.5 mm

（外壁）：サイディング t14 mm張り

（その他）：腰壁：耐水ラワン合板下地杉下見板張り 180×15

内部仕上

（床）：構造用合板⁷12 mm下地フローリング張り t12 mm

（壁）：ビニルクロス張り

（天井）：構造用合板 t12 mm根太 45×60 表し

（その他）：腰壁ラワン合板 t9 mm下地杉板 t9 mm張り



平面図

西立面図



●配置計画について

既存の酒田ろう学校の北側に建設し、既存の管理棟及び体育館と通路で連絡することにより、一体的な管理を可能とした。配置は中庭型とし、職員室のある棟から中庭を介して全体を見渡せ、安全な屋外活動区間を提供できる計画とした。

また、回廊式とすることにより施設全体のアクセス距離を短くし管理が容易にできる動線になるよう配置した。

既存の聴覚障がい教育部門と知的障がい教育部門を車椅子で行き来できる連絡通路を整備することで、各障がいに対応しながら、既存のプールやグラウンド等は共用とし、一元での教育活動を行いやすくなるよう配慮しました。

●教室数に関する工夫

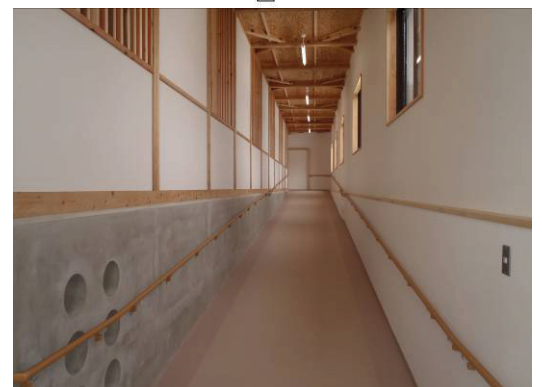
普通教室棟は今後の在籍数の増加を見込み、最大 24 学級とし、小学部の小教室（小学部S）は可動間仕切壁により教室数の調整ができるようにしている。

●木造を採用した理由

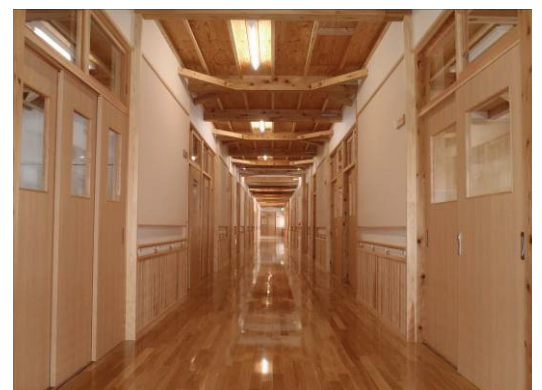
特別支援学校という特性上、段差のない平屋建てとした。また、耐火構造の渡り廊下で一定面積ごとに区画することにより、耐火等の要求が無くなり木造で計画を行うことが可能となった。「山形県建築工事県産木材活用指針」でも木材の利用を推進しており、構造材だけでなく内装材にも多く木材を使用した。



《高等学部教室》



《連絡通路スロープ》



《廊下》



《プレイルーム》



《プレイルーム外観》 バットレス

●大空間に対する工夫点

多目的室（スパン約 13m）の大空間を確保するため、鉄骨の接合部を用いた木造のトラス架構とした。外部にバットレスが露出する計画となり、木造トラス架構の力強さが表れている。



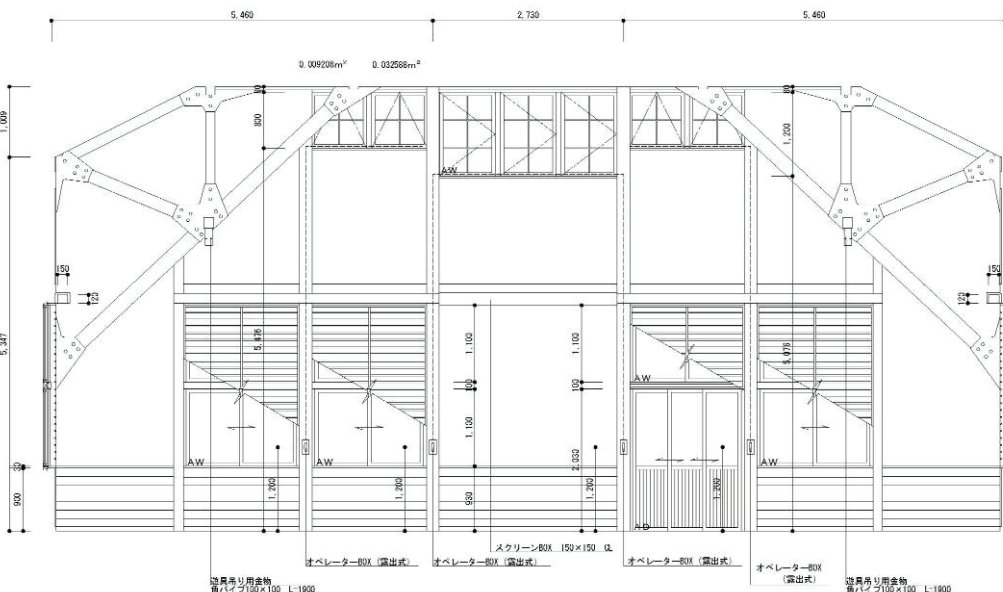
《高等部小屋組状況》



《プレイルーム小屋組状況》

●コスト低減に対する工夫

小屋組みを洋組みのトラス構造とすることで必要な部材を短くすることができ、木材供給やコスト低減へ配慮した計画とした。また、内装でも天井を構造用合板の表しとすることで経済的に配慮した計画とした。



プレイルーム展開図



《上弦材下弦材が棟で合掌》



《柱と梁・桁・筋違の交差部》



《木材伐採》



《屋根野地板張》 桧板使用（県産材）

《使用木材》



杉 673.2 m³、ひのき 24.8 m³、
計 698.0 m³【県産木材 617.3 m³】

● 県産木材の使用について

県の「山形県建築工事県産木材利活用指針」では、木造を採用した場合の県産木材使用率の目標値を70%としており、この建物では、内装仕上げ材料にもフローリングや腰壁の杉板、天井の合板表しなど多くに木材を使用し、木材使用量に対する県産木材の割合を85%、構造部材に限ると100%と目標値を大きく上回る地域材料を使用している。

● 防火、耐火上の考慮点

既存の建物との間を鉄骨造の渡り廊下で接続することで、耐火・準耐火の要求がない規模に区画した。また、室内については学校は内装制限を受けない施設のため天井や壁の仕上げ材に木材を多く使用する計画とした。さらに、内装に多くの木材を利用しながら構造材料も出来る限り表しとすることで、木材の温かみや風合いが利用者に伝わる豊かな空間を造ることを目指した。



《作業室》



《昇降口》



《小学部前運動場》外壁の腰壁にも木材を使用

■ 事業概要

設計者：株式会社 永井設計
 施工者：(建築) 丸伸建設 株式会社
 (電気) ミナモト電気 株式会社
 (機械) 山形空調 株式会社
 工期：平成22年7月～平成23年3月

設計費： 17,430 千円
 建設費：(建築) 363,820 千円
 (電気) 53,055 千円
 (機械) 81,285 千円
 (合計) 498,160 千円
 1 m²あたりの建設費： 258 千円